

学校評議員会議事録

日 時	平成 3 0 年 7 月 2 4 日 (火) 1 0 時 0 0 分 ～ 1 1 時 5 0 分		
会 場	北海道白糠養護学校 会議室		
出 席 者	学校評議員 5 名	学校側 2 名	
出席者名	小 淵 隆 司 下 重 哲 也 中 岡 美 緒	山 田 誠 田 嶋 宏 祥	菅 原 康 之 児 玉 崇 志
校長が意見を求めた事項		内 容	
・児童生徒の主体性を引き出す授業について ・パートナーティーチャー派遣事業について ・自然災害時の対応について		・授業を参観したが、児童生徒それぞれの障がい特性を理解し、子どもの主体性を大切にした授業を行っていると感じた。 ・児童生徒が授業に意欲的に参加する仕掛けや、授業に参加する機会を教師が投げかける事を常に考えていなければならない。 ・教師が説明し、児童生徒がただ聞く従来型の授業形態では主体性を引き出す事は難しい。 ・地域間の連携として、普通校の特別支援学級増加で特別支援学校はコーディネート役がますます期待されていると思う。 ・特別支援教育の専門的な意見をいただけるのは現場としてありがたい。色々複雑な問題はあるが、ぜひとも続けていただきたい事業です。 ・特支の先生が、教育課程や授業スタイルの異なる通常学級を本当の意味で支援出来るのか？という疑問がある。通常学級（学校）で何が起きているか知った上でないと難しい。 ・自然災害の際、保護者への一斉メール送信を活用してはどうか？ （非常時にメールが届くかは疑問が残ります。非常時の通信手段には白糠学園の衛生電話の活用を考えていますが、連絡方法や避難方法は今後も専門家の意見を聞きながら検討していきたい。） ・障がいを持つ児童生徒の学校という点を考慮し、違う視点からの検討が必要だと思う。シェルターへの避難など、アイデアを出し合う議論の場が必要ではないか。	
上記のとおり会議を開催した。			
平成 3 0 年 7 月 2 4 日 北海道白糠養護学校長 菅 原 康 之			

*別の様式により意見聴取の内容を整理している場合には、それを添付し保管すること。
 *配付資料などを添付し保管すること。